

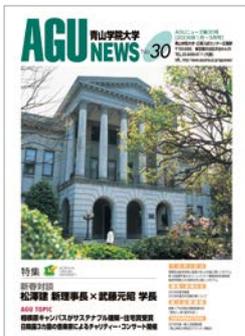
AGU NEWS

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS

青山学院大学

2021年3月号

<https://www.aoyama.ac.jp/>



THE FINAL EDITION
2000-2020

20年を経て 次のステージへ

2000年3月に創刊された大学広報誌『AGU NEWS』は、
次のNo.100から装いを新たにメールマガジンとして配信を開始します。

※詳細はP10をご確認ください。



No.99
AGU Lecture
地球社会共生学部
地球社会共生学科
林拓也ゼミ

持続可能でよりよい世界を目指して 青山学院大学SDGsへの取り組み

青山学院大学は、本学の理念に基づき、SDGsの達成に向け、多くの活動を進めています。その一部をご紹介します。



持続可能な開発目標 SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは

SDGsは2015年の「国連持続可能な開発サミット」で採択。「誰一人取り残さない」、持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するため、2030年を期限とする17の国際目標と、169のターゲットが設定されている。



学長メッセージ



青山学院大学は、キリスト教信仰にもとづく教育をめざす「『地の塩、世の光』としての教育研究共同体」として人類への奉仕をめざした自由で幅広い学問研究に取り組み、地球規模の視野で問題解決に挑む人材の育成を理念として掲げています。これはSDGsにおける包摂性(地球上の誰一人取り残さない)の実現に重なるものであり、本学の理念を達成することがSDGsの達成につながるものと考えています。

また、建学の精神に立ち返りながら、社会環境の変化に対応し、さらにはそれを先取りする形でさまざまな施策も展開しています。例えば、2019年度よりSDGsと関連する研究を支援する制度を創設するなど、既にSDGsにつながる多様な取り組みを行っています。今後一層、SDGsへの取り組みを強化していきます。

青山学院大学
学長 阪本 浩

青山学院大学での取り組み

大学として「全国児童養護施設推薦入学選抜」を実施しているほか、SDGs関連の研究を支援する新制度も創設しました。それぞれの課題の解決のための、既存の研究を超えた斬新かつ具体的な研究を対象とし、2019年度は「アジアの農業の持続的発展」や「産学官連携による食品ロスの低減対策」など12プロジェクトを、2020年度は「環境負荷の低減に資する放射線化学反応の開発」や「医薬品として役立つ有機リン化合物の地球にやさしい合成法の開発」など10プロジェクトを採択しました。また、1・2年生対象キャリアガイダンス「10年後のあなたをSDGsで考える」～君の学びが地球を救う?～をオンラインで開催しました。

さらに、各学部でもSDGsに関するさまざまな活動を行っています。国際政治経済学部公認学生団体SANDSが毎年世界食料デーにあわせて「飢餓ゼロ(Zero Hunger) 1016キャンペーン」を、総合文化政策学部フェアトレード・ラボが「フェアトレード・ウィーク」を開催。また東日本大震災後、学生主体でボランティア団体を立ち上げ現在も活動を行うなど、SDGsに関する多様な取り組みを行っています。



2020年度も青山学院購買会IVYCS(株式会社アイビー・シー・エス)と協働でフェアトレード商品の販売を行ったり、産学民共催の、フェアトレード・フォーラムをオンラインで開催しました。



1・2年生対象キャリアガイダンス「10年後のあなたをSDGsで考える」～君の学びが地球を救う?～をオンラインで開催しました。

SDGs取り組み事例一覧

本学におけるSDGsの取り組み事例は、本学公式ウェブサイトに掲載されています。



日本赤十字社と ボランティア・パートナーシップ協定を締結



2020年10月16日(金)、本学と日本赤十字社は、国際社会における人道的課題に取り組むボランティアの育成において、相互の連携・協力の推進を目的として、ボランティア・パートナーシップ協定を締結しました。

日本赤十字社は、ボランティア活動の情報及びプログラムを本学に提供し、本学と協力して国際社会における人道的課題に取り組むボランティアの育成を行います。本学は、学内でその周知に努めるとともに、学生や教職員、卒業生などに対してボランティア活動への参加を呼びかけます。

本学 青山キャンパスで行われた締結式では、日本赤十字社の大家義治社長と阪本浩学長が協定書に署名しました。

ボランティアとは、助けを求めた人々に自らの知識、技能、時間、資源を提供する崇高な務めであり、支え合う社会を築き人々の信頼と相互扶助を促進するものです。日本赤十字社と本学はここにボランティア・パートナーシップ協定を結び、赤十字の精神と「地の塩、世の光」の精神とを未来につなぎ広げていくことを目指します。



ボランティア・パートナーシップ協定を締結した日本赤十字社の大家義治社長(右)と阪本浩学長(左)

健康的な生活のための 水質測定技術の開発



人間が生活する上で、「水」は最も重要な資源の一つであり、良質な水を使用することが、人間の健康や生活の質向上に直接つながります。

理工学部電気電子工学科の黄晋二教授と渡辺剛志助教は、水の消毒殺菌に用いられる塩素系薬剤の濃度を正確に測定し、適切に管理するために必要な残留塩素センサーの技術開発に取り組んでいます。

グラフェン*の化学的安定性、表面感受性、優れた電気伝導性、機械的特性などを駆使することで、連続的に、かつ定量的に残留塩素濃度を高感度に測定できる可能性があり、グラフェンランジスタをベースとする残留塩素センサー技術の研究を進め、これまでに水質管理に必要な0.08ppm～30ppmの残留塩素濃度の高感度なセンシングに成功しています。併せて、耐久性を有しながらもディスプレイなセンサー電極として使用できるため、小型で安価な残留塩素センサーの開発へとつながる可能性もあります。本研究を通して、発展途上国をはじめ、世界中で手軽に使用できる小型・安価な残留塩素センサーを実現し、人類の健康と幸福に資することを目指します。



測定結果について議論している様子

*グラフェン・・・炭素原子で構成されたシート状の材料

国際政治経済学部 公認学生団体「SANDS」



国際政治経済学部公認の学生団体「SANDS」は、SDGs達成のため大学生として何が出来るかを考え、行動し、周りの人へのインフルエンサーになっていこうという目標を掲げ、活動しています。

SANDSは国連世界食糧計画(以下国連WFP)の取り組みに共鳴し、毎年10月16日の世界食料デーに向けて「飢餓ゼロ(Zero Hunger) 1016キャンペーン」を行っています。2020年は、10月12日(月)～10月23日(金)の期間中、同年ノーベル平和賞を受賞した国連WFPより職員の方々をお招きし、オンラインで講演会を催すなど、本学内外の方々に飢餓・食糧問題について考えていただき、実際にアクションを起こしてもらうことを目的としてさまざまな参加型の企画を開催しました。

世界食料デーに合わせ「飢餓ゼロ(Zero Hunger) 1016キャンペーン」を開催



学生交流企画としてのボランティアプログラム

1 Green Up Project

【青山キャンパス編】

9月19日(土)と10月3日(土)の2回にわたり、青山キャンパス周辺のゴミ拾いをしながら参加者同士が交流を図る「Green Up Project」を実施しました。1回目は12人、2回目は16人の学生が参加し、青山キャンパス正門から表参道交差点までの青山通りのゴミ拾いをしました。ミニキャンパスツアーと振り返りを経て、活動前とは打って変わって和やかな雰囲気の中で活動を終えることができました。



【相模原キャンパス編】

青山キャンパスと同様の形式で11月28日(土)に実施しました。当日は相模原キャンパス正門からJR淵野辺駅までの通学路と、日頃お世話になっている駅前の商店街(にこにこ星ふちのべ商店会)のゴミ拾いをしました。参加者6人は運営メンバーの丁寧な説明と積極的なコミュニケーションにより楽しく活動をしていました。学生同士の交流に加えて、地域への理解が深まった活動となりました。



学生の声

佐藤 颯さん
文学部 史学科2年
神奈川・私立日本大学高等学校出身

私が所属する「グリーンバード青山学院大学ゴミ拾い愛好会」はキャンパスに来ることができない新生入生に、大学の魅力を伝えつつ、ボランティアを通じた交流を企画し、「新生歓迎×キャンパスツアー」を行いました。またゴミ拾いの企画はどなたでも参加しやすいボランティアであり、初対面でも会話のハードルを下げるができます。当日は、参加者の皆さんが、ゴミ拾いが始まるとすぐに打ち解けて仲良く話していた様子が印象的でした。今後もこうしたイベントを通して、学生同士の交流の機会創出ができればと考えています。また、より多くの学生がボランティアに参加するきっかけづくりができるよう、積極的に活動していければと思います。

2 手話コミュニケーション講座

11月4日(水)、11日(水)、18日(水)全3回の連続講座として「手話コミュニケーション講座」を青山キャンパスにて開催し、1回目は19人、2回目は18人、3回目は15人の学生が参加しました。



前半は手話教室「華乃樹」講師により手話の表現方法や聴覚障がいのある方との会話のポイントなどを講演していただき、後半は本学手話部の有志メンバーによるレクリエーションで毎回楽しみながら手話を学び、受講者同士の交流を深めることができました。

学生の声

新庄 彩桂さん
文学部 英米文学科1年
静岡・私立静岡英和女学院高等学校出身

コロナ禍において、当たり前のように通えなくなってしまったキャンパスを訪れ、対面で手話を通じたコミュニケーションを学べる機会に魅力を感じ、参加しました。日本語の文法とは異なる日本手話を手を動かしながら覚え、聴覚障がいのある方一人一人に合わせた手話を用いることの大切さを学びました。さらに、ろう者講師の方との会話の中で手話やジェスチャー、アイコンタクトで心を通じ合わせる事ができました。この講座を通して、手話に限らず「相手に寄り添ったコミュニケーション」が大切だと気付かされました。他者との距離の取り方に戸惑う今だからこそ、同じ社会に生きるさまざまな人の立場となり、思いを通じ合わせながら助け合って生きていきたいと思っています。

3 自然体験プログラム【援農編】

晴れ渡る秋空のもと、11月21日(土)に「自然体験プログラム 援農編」を実施しました。活動フィールドは東京都あきる野市にある東京地球農園。当日は9人の青学生が農園を訪れ、農作業を手伝いました。午前中はトウモロコシ畑のマルチ(黒のフィルム)剥がしを、午後はさつまいも掘りやネギ掘り、そして玉ねぎの苗植え作業を行いました。最初、学生たちは要領がつかめな様子でしたが、徐々に役割分担しながら効率よく作業していくことを学びました。



学生の声

庄野 美礼さん
コミュニティ人間科学部 コミュニティ人間科学科1年
神奈川県立鶴見高等学校出身

青学に入学したもののサークルなどにも参加せず何もせずに1年間が終わってしまう気がしたので、思い切ってこのプログラムに申し込みました。農作業は畑のマルチ剥がしやツタの除去作業など単純作業でしたが作業面積が広いためとても体力を使いました。休憩時には畑に育っている西洋ワサビの葉をそのままつんで食するという体験もしました。西洋ワサビの葉は草の味が強いものですが、他の参加者も全員チャレンジしていたのが印象的でした。一緒に活動した先輩たちはみな親切で、初めてのボランティア活動、先輩との交流でしたがとても楽しく過ごすことができました。農場の方のお話から新しい知識を得るとともに、日ごろ食べているもののありがたさを感じる貴重な機会になりました。そして何よりも、新しい出会いに感謝しています。

2020年5月末に緊急事態宣言が解除されて以降、ボランティアセンターでは新型コロナウイルス感染拡大防止に伴うボランティアセンターの利用・ボランティア活動に関するメッセージをウェブサイトに掲載するほか、リモートでも参加できるイベントやボランティア活動情報特設ページを作成し情報発信に努めてきました。また、後期に入ってから十分な感染症対策を行った上でボランティア活動を通じた学生交流企画を実施し、これまで3プログラムを計7回開催し、のべ95人の学生が参加しました。

オンラインイベント

1 こどもテーブルを知ろう!

9月5日(土)渋谷区社会福祉協議会と共催し「渋谷区版こども食堂「こどもテーブル」を知ろう!」イベントをオンラインで開催し、学生13人が参加しました。渋谷という地域の力による子育ての形態である「渋谷区こどもテーブル事業」について学び、こどもテーブルを運営するNPO法人「あーすりんく」のすぎやまゆうこ氏より、活動のきっかけや実際の活動についてご紹介いただきました。「オンラインでも工夫次第でボランティア活動を始めることができ、対面活動の自粛の中にも楽しさや喜び、幸せを見つけていくことがとても良い気付きとなりました。」など、対面での活動が制限される中でも、できることを実践する地域の方々の力に、参加した学生も刺激を受けたようでした。

2 国際協力プランナー入門

9月9日(水)、10日(木)の2日間、昨年引き続き「途上国の課題を解決する国際協力プロジェクト」づくりについて学ぶ実践的研修プログラムをオンラインで開催し、23人の学生が受講しました。今回はSDGsを基軸に持続可能な社会づくりをテーマとし、ゲストスピーカーのトーク後には活発な質疑応答が行われました。最後は、グループごとに、それぞれ特色のあるアクションプランの発表を行いました。新型コロナウイルス感染拡大を受けて、海外との行き来は自由に行えない状況ですが、遠い国の問題を身近に感じることができたという感想が多かったのが印象的でした。



学生の声

数實 奈々さん
国際政治経済学部 国際経済学科4年
千葉県立船橋東高等学校出身

長年関心があった国際協力を学びたいと考え、今回プログラムに参加させていただきました。実際にグループでアクションプランを作る中で、「途上国の子どもたちが学校に通えない」という問題一つをとっても、健康面や経済状況、インフラ不足など多くの問題が複雑に絡みあっており、それらをプロジェクト化する難しさを経験しました。またNPO法人ユニカセ・ジャパンの代表である中村八千代氏のお話を伺い、ソーシャルビジネスを含む持続可能な新しい国際協力の形にも大変関心を抱きました。フェアトレード商品を購入するなど途上国のために日頃から自分にできることを模索するとともに、社会人になっても持続可能な国際協力の在り方を考え続け、体現したいと思っています。

3 ユニバーサルマナー検定3級

9月30日(水)一般社団法人日本ユニバーサルマナー協会が主催する「ユニバーサルマナー検定3級」を青学生限定のオンラインで開催し、学生の受講料の一部補助を行いました。高齢者や障がい者の方への基本的な向き合い方や声かけ方法を習得するための検定試験で、募集開始から2時間定員50人に達し、昨年度に続き学生にとって大変関心の

高いものとなりました。「お手伝いをするのがサポートだと思っていたが見守ることもサポートになるなど、新たに正しい知識を学べた」等、受講した学生がユニバーサルマナーのマインドを身に付け、日常でのアクションへとつなげていけることを期待します。

4 認知症サポーター養成講座

10月27日(火)相模原市版、10月28日(水)渋谷区版としてオンラインによる「認知症サポーター養成講座」を実施しました。相模原市版では14人、渋谷区版では15人の学生が参加し、認知症の基礎知識を学び、参加者同士でのディスカッションも行いました。また、相模原市と渋谷区それぞれの実践的な活動を講師の方々より紹介いただき、各キャンパスがある地域の取り組みに学生も関心を寄せていました。受講者には認知症やその家族を見守る応援者である認知症サポーターの証として、オレンジリングが贈呈されました。



学生の声

福井 咲希さん
文学部 日本文学科1年
東京都立町田高等学校出身

認知症の症状や認知症の方との接し方について学びたいと考え参加しました。認知症サポーター養成講座では、動画をもとにしたグループワークや講師の方のお話を通じて、認知症の方がどう感じているのか、私たちがどう接するべきかを具体的に学ぶことができました。そして、認知症サポーターは「認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を見守る応援者である」ということを学び、自分の身近にも実践できることがあると知りました。日頃のコミュニケーションを大切にすることや、相手の目線に合わせる事など、今回の講座で学んだことを生かして、これから、認知症サポーターとして自分にできることを実践していきたいと思っています。

5 ボランティアカフェ(通称:ボラカフェ)

授業実施期間のお昼休み、気軽に参加できるボランティアカフェを月1回から2回のペースで青山と相模原キャンパスそれぞれのボランティアセンターで開催しました。毎回ゲストスピーカーを招き、動物愛護活動や岩手県大船渡市のコミュニティ活性化支援、バングラデシュの教育支援、福島県いわき市とのオンライン交流や地域(相模原市内)で参加できるボランティア活動の紹介など、さまざまテーマを設けました。

6 オンライン相談窓口

キャンパスに来る機会が減ってしまった学生のために、コーディネーターと相談ができるオンライン窓口を10月より開室しました。毎週月・水曜の昼休み(12:30~13:20)にZoomミーティングを利用して参加できます(予約・申込不要)。授業の合間に少し息抜きをしたい学生も歓迎します。詳細は学生ポータルにてご確認ください。

第97回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝) 復路優勝、総合第4位。12年連続でシード権を獲得!



2021年1月2日(土)・3日(日)に開催された第97回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)において、本学は11時間1分16秒の記録で総合第4位となりました。

往路は1区の吉田圭太選手がトップから18秒差の6位、2区の中村唯翔選手が13位、3区の湯原慶吾選手が向かい風の中11位でつなぎ、4区の佐藤一世選手が区間4位の走りで徐々に順位を上げ10位へと浮上。5区の竹石尚人選手は走行中に立ち止まる苦しい状況ながらも、12位でゴールしました。

復路では6区の高橋勇輝選手、7区の近藤幸太郎選手、8区の岩

見秀哉選手が、そろって区間3位を記録したことで5位へと躍進。9区の飯田貴之選手は、直前のけがで出走できなかった主将の神林勇太選手から給水を受け、区間2位の走りで4位に。10区の中倉啓敦選手は、区間4位の走りで総合第4位でフィニッシュテープを切ることができました。

原監督の掲げた「絆大作戦」のもと、復路は5時間25分33秒の記録で優勝、12年連続で10位以内(シード権獲得)という結果を残しました。2日間にわたり、テレビなどで応援・観戦いただき、誠にありがとうございました。

総合成績 11時間1分16秒 第4位

往路 大手町～箱根・芦ノ湖 107.5km 5時間35分43秒 第12位

1区	2区	3区	4区	5区
大手町～鶴見 21.3km	鶴見～戸塚 23.1km	戸塚～平塚 21.4km	平塚～小田原 20.9km	小田原～箱根町 20.8km
吉田 圭太 選手 地球社会共生学部 4年	中村 唯翔 選手 総合文化政策学部 2年	湯原 慶吾 選手 文学部 3年	佐藤 一世 選手 総合文化政策学部 1年	竹石 尚人 選手 総合文化政策学部 4年
区間6位 1時間3分18秒	区間14位 1時間8分29秒	区間14位 1時間4分48秒	区間4位 1時間3分9秒	区間17位 1時間15分59秒

復路 箱根・芦ノ湖～大手町 109.6km 5時間25分33秒 第1位

6区	7区	8区	9区	10区
箱根町～小田原 20.8km	小田原～平塚 21.3km	平塚～戸塚 21.4km	戸塚～鶴見 23.1km	鶴見～大手町 23.0km
高橋 勇輝 選手 国際政治経済学部 3年	近藤 幸太郎 選手 経営学部 2年	岩見 秀哉 選手 教育人間科学部 4年	飯田 貴之 選手 総合文化政策学部 3年	中倉 啓敦 選手 社会情報学部 2年
区間3位 58分13秒	区間3位 1時間3分14秒	区間3位 1時間4分29秒	区間2位 1時間9分20秒	区間4位 1時間10分17秒

秩父宮賜杯 第52回全日本大学駅伝 対校選手権大会で第4位

総合成績 5時間12分42秒

2020年11月1日(日)「秩父宮賜杯 第52回全日本大学駅伝対校選手権大会」が開催され、本学は5時間12分42秒で第4位となりました。

3度目の優勝を目指してスタートした選手たちは他校との接戦の中、3区・4区で追い上げ、5区佐藤一世選手と7区主将の神林勇太選手が区間賞の快走で、健闘。最終8区にトップでタスキをつなぐも、トップと1分34秒差の第4位という結果に終わりましたが、8年連続で次回大会のシード権を獲得しました。

アディダス ジャパン株式会社とのパートナーシップに関する取り組み インターンシップ参加学生報告

本学はアディダス ジャパン株式会社(アディダス)とスポーツ分野におけるパートナーシップ契約を締結しています。就業体験を通して視野を広げ、習得したものを学生生活やキャリア形成にも生かせることから、2017年度より、アディダスにおいても、本学と提携したインターンシップがスタートしました。2020年度にスポーツマーケティングの現場で、実際の業務を通してさまざまな体験をした学生2名のコメントを紹介します。

3カ月のインターンシップで得たスキルや学びを生かしたいです

近藤 佑樹さん 理工学部 電気電子工学科4年 神奈川県・私立日本大学藤沢高等学校出身



プレゼンテーション時の様子

就職前に自分のスキルを向上させたい、また自分がやりたいことを明確にしたいと思い、インターンシップに参加しました。このような職場体験は、新卒でも基本的なビジネススキルを身に付けて社会

の前でプレゼンテーションを行い緊張しましたが、「堂々と発表できていた」という言葉をいただいて自信ができました。

インターンシップを通して学んだことは、決められた期限までに仕事を終わらせることの大切さです。また、何ごとにも常に「なぜ?」という気持ちを持って行動することや、ミスをしたら同じミスをしないよう努力をすること、常に前向きに行動することも学びました。社会に出たら、こうした学びを生かしたいです。

人となれる点で評価されると思います。

私はブランドコミュニケーション部署のPRルーム担当となり、アディダスの新商品を媒体に貸し出す仕事をしました。もともとアディダスというブランドが好きだったため、新作が陳列されているPRルームに初めて入ったときには嬉しかったです。仕事の主な内容は、システム上での商品管理と商品の発送作業。東京のオフィスやAPAC(アジア太平洋)のグローバル部門の役職者が目を通す英語版の資料の作成において、競合相手に関するリサーチも任せられました。最終日にはマーケティングプランを社員の方たち



プレゼンテーションの後、近藤さん(後列左から4番目)とチームメンバーとの記念撮影

世界のトップ企業ならではの刺激的な経験ができました

岩佐 駿佑さん 国際政治経済学部 国際経済学科4年 福岡県・私立上智福岡高等学校出身



インターンシップを開始して間もない頃

子どもの頃からスポーツに親しんできた私は、常々「スポーツを通して社会貢献したい」と考えており、アディダスのインターンシップに興味を持ちました。大学での学びをビジネスの現場で実践する

必要なことを教えてもらえる大学とは違って、職場では皆さん多忙なため、教えていただくために自分からコミュニケーションを取りに行かなければなりません。仕事の幅を広げるためには自ら必死になって学び、行動することも大切であると実感しました。最終日には、大学生ならではの視点でマーケティング企画の提案を行い、社会人の方々から本気のフィードバックをいただけたことにとても感謝しています。インターンシップでは、大学で学んだグローバルな体系的理論をビジネス現場で活用するという、素

機会にもなると思い、応募しました。

アディダスでは、マーケティング戦略を策定し、それをもとに選手に協力依頼やブランドPRを行うスポーツマーケティング部で働きました。ミーティングの資料作成や選手の撮影、イベントのサポートなどを行い、日本を代表する選手と接する機会もあったため、とても刺激的な経験ができたと思います。また、一つの商品を発売するまでのコンセプト策定からプロモーションに至るステップが、圧倒的なスピード感をもって行われていくのを目の当たりにし、世界のトップ企業だと感嘆しました。



晴らしい経験ができたと思います。

アディダスのオフィスにて、岩佐さん(右)が尊敬する上司と

2020年度 卒業・修了、進級および成績等に関する日程

日時	内容	備考
3月 4日(木) 10時30分～	修了決定者発表・成績通知書開示 (専門職大学院)	卒業・修了決定者の成績通知書は、3月27日(土)まで学生ポータル上で閲覧できます。
3月 6日(土) 10時30分～	卒業・修了決定者発表(学部・大学院) 成績通知書開示(4年次生・大学院生)	
3月 6日(土) 13時30分～	成績通知書開示(1～3年次生)	進級条件が設定されている学年のみ
	進級決定者発表 卒業見込可能者発表	理工学部・社会情報学部3年次生のみ
3月 8日(月)	保証人宛成績通知書発送	卒業決定者には発送されません。
3月27日(土)	学位授与式	所属の学部・研究科によって時間が異なりますのでご注意ください。 詳しくは本学公式ウェブサイトをご覧ください。 3月の卒業発表後、保証人の方(専門職大学院は除く)宛にご案内状を発送いたします。

※詳細は学生ポータルや、本学公式ウェブサイトを参照してください。

※2020年4月に予定し、新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止となった2020年度入学式を、2021年3月31日(水)に開催します(予定)。3月上旬に、保証人の方宛に、ご案内状を発送いたします。詳しくは、本学公式ウェブサイトをご覧ください。

2020年度 春期休業期間中の窓口案内(2/3(水)～3/31(水))

詳細は本学公式ウェブサイト
でご確認ください。

2021年度 学事暦(学部)

年度初頭のオリエンテーション、履修ガイダンス、健康診断は学部・学科ごとに行います。

日時・場所の詳細は学生ポータルにて配信しますので、必ず確認してください。

前期	後期
4/1(木) 入学式	9/17(金) 後期授業開始
4/1(木)～10(土) オリエンテーション、履修ガイダンス、健康診断*1	9/20(月・祝) 授業実施日(敬老の日)
4/5(月) 前期授業開始	9/30(木) 後期履修登録最終日
4/5(月)～9(金) 新入生歓迎礼拝	10/9(土)、10(日) 相模原祭期間(9(土)は相模原キャンパスのみ休講)
4/6(火) 新入生歓迎礼拝(夕礼拝)	10/11(月)～15(金) チャペル・ウィーク(後期)
4/15(木) 前期履修登録最終日	10/28(木) 宗教改革記念礼拝
4/29(木・祝) 授業実施日(昭和の日)	10/29(金)～31(日) 青山祭期間(青山・相模原キャンパスとも休講)
5/17(月)～21(金) チャペル・ウィーク(前期)	11/1(月) 授業休講(青山・相模原キャンパス)
5/24(月) ジョン・ウェスレー回心記念日礼拝、ペンテコステ礼拝	11/16(火) 授業実施日(創立記念日)・ 創立記念礼拝
6/19(土) アドバイザー・グループ・デー(青山・相模原キャンパスとも授業を実施)	11/26(金) クリスマス・ツリー点火祭
7/24(土)～31(土) 前期定期試験期間	12/16(木) クリスマス礼拝(相模原キャンパス)
8/2(月)～9/16(木) 夏期休業期間	12/21(火) クリスマス礼拝(青山キャンパス)
9/25(土) 9月学位授与式	12/24(金)～2022年1/5(水) 冬期休業期間
	1/6(木) 後期授業再開
	1/14(金)～16(日) 大学入学共通テスト準備日・実施日(14(金)、15(土)は青山キャンパスのみ休講)
	1/20(木) 補講日(青山・相模原キャンパス)
	1/21(金) 補講日(相模原キャンパス)
	1/25(火)～2/1(火) 後期定期試験期間
	2/2(水)～4(金) リーダーシップ・カレッジ
	3/26(土) 学位授与式・ 卒業礼拝

※緑字は、宗教行事です。

※大学院・専門職大学院の学事暦は一部異なります。本学公式ウェブサイトや「大学院要覧」等を参照してください。

*1 健康診断は青山キャンパス4/1(木)～6(火)、相模原キャンパス4/2(金)～6(日)(ただし、各キャンパスとも4/4(日)は除く)に実施します。

2021年度 学費納付のご案内(学部・大学院)

納付スケジュールとご注意

発送日	発送対象者	振込依頼書種別	納入期限	注意事項
4/14(水) 予定	学部生 大学院生	前期分学費 前後期一括学費	5/10(月)	前期分学費をお振込の場合 は、後期分学費振込依頼書を保管の上、後期納入期限までにお支払いください。
		後期分学費	9/30(木)	
7/16(金) 予定	教職・諸資格 申請学生	後期分学費 ※教職・諸資格課程料加算 教職・諸資格課程料	9/30(木)	前期分学費をお支払い済みの場合は、後期学費に 教職・諸資格課程料を加算した金額の振込依頼書 をお送りします。前後期一括学費をお支払い済みの場合は、 教職・諸資格課程料のみの振込依頼書 をお送りします。

高等教育の修学支援新制度採用者

発送日	発送対象者	振込依頼書種別	納入期限	注意事項
4/14(水) 予定	採用者 (新生を除く)	前期分学費	5/10(月)	決定されている支援区分により減免した授業料で学費を算出し前期分学費振込依頼書をお送りします。
11/8(月) 予定	採用者 (新生を含む)	後期分学費	11/26(金) 予定	支援区分の確定後に、減免した授業料で学費を算出し後期分学費振込依頼書をお送りします。

最終年次2年目以上(休学除く)

発送日	発送対象者	振込依頼書種別	納入期限
5/17(月) 予定	学部生	前期分学費	6/4(金)
5/24(月) 予定	大学院生		6/11(金)
10/18(月) 予定	学部生	後期分学費	11/5(金)
10/22(金) 予定	大学院生		

■学部生の振込依頼書は、申し出がない限り、原則として保証人の方宛に送付します。学生ご本人宛に送付先変更を希望する場合は、学生生活部学費・奨学金課(青山キャンパス)・学生生活課(相模原キャンパス)に「学費振込用紙送付先変更届」を提出してください。

■入金確認のため、大学より送付する振込依頼書を用いて、金融機関窓口で納付してください(ATM・インターネットバンキングを利用される場合は、同封の案内文に記載されている注意書きに従って手続きしてください)。なお、振込手続きの際、公的機関発行の身分証明書等の提示が必要となる場合があります。詳細は各金融機関窓口にお尋ねください。

■最終年次において留年した場合、履修登録単位数によって学費が異なります。履修登録後に学費を算出するため、振込依頼書の発送および納入期限は上記の表の通り予定しています。

相談・問い合わせ先

各種申請は、学生ご本人が直接窓口へ来るようにしてください。窓口に来られない場合は、ご相談ください。春期休業期間中の窓口開室日時は本学公式ウェブサイトをご覧ください。

①	保証人および保証人住所の変更 学生住所の変更*	青山キャンパス 相模原キャンパス	学生生活部 学生生活課 学生生活課
②	振込手続き、学費一覧表	青山キャンパス	庶務部 経理課
③	振込依頼書の送付先変更・再発行 学費の延納	青山キャンパス 相模原キャンパス	学生生活部 学費・奨学金課 学生生活課
④	休学・退学	〈学部〉 青山キャンパス 相模原キャンパス	学務部 教務課 学務課

※学生住所および保証人住所の変更は、学生ご本人が学生ポータル上で手続きしてください。

大学広報誌『AGU NEWS』は、No.100よりメール配信に変更になります

前号送付時にお伝えした通り、大学広報誌は、2021年度初頭発行予定の次号「AGU NEWS」No.100より、冊子からメール配信に変更になります。メール配信により、動画コンテンツをはじめ、これまで以上に多くのニュースやトピックスをお届けします。

保証人メールアドレス ご確認およびご入力をお願い

保証人の皆さまにメール配信を行うため、以下の手順で、**学生ポータルで学生ご本人により**「保証人メールアドレス」をご確認くださいようお願い申し上げます。保証人の皆さまによるアドレスの変更はできないため、**学生ポータルから学生ご本人の手続きが必要**となる点をご了承のほどお願いいたします。

- ※メールは agu-news@aoyamagakuin.jp から配信されますので、受信可能な設定をお願いいたします。
- ※大学入学手続き時にUCARO(受験ポータルサイト)でメールアドレスを登録していない方は、ご入力をお願いいたします。

メールアドレス確認・入力手順

①学生ポータルのTOPメニュー

My Profileの「学生住所・保証人住所変更」を選択



②学生住所・保証人住所変更ツール

変更情報選択: 「学生保証人住所情報変更」でメールアドレスをご確認・ご入力後、更新ボタンを押下

学生保証人住所情報変更 *必須項目	
保証人氏名 *	(例)青山 太郎 【全角: 40文字以内】
保証人カナ氏名 *	【全角: 40文字以内】 ※全角スペースを避ける (例)アヤマ タロウ
郵便番号 *	(例)1508366 【半角数字: 7桁】
住所1 (都道府県、市区町村) *	(例)東京都渋谷区 【全角: 40文字以内】
住所2 (町名、番地) *	(例)渋谷4-4-25 【全角: 40文字以内】
住所3 (マンション名等) *	(例)青山マンション302号室 【全角: 40文字以内】
電話番号 *	(例)03-3409-9280 【半角英数字: 20文字以内】 ※8桁
携帯電話番号 *	(例)090-1111-2222 【半角英数字: 20文字以内】 ※8桁
メールアドレス *	(例)ooooooooo*****ne.jp 【半角: 40文字以内】
保証人種別 *	1:保証人家族
保証人続柄 *	01:父

「AGU NEWS」の問い合わせ先

：政策・企画部 大学広報課 TEL: 03-3409-8159

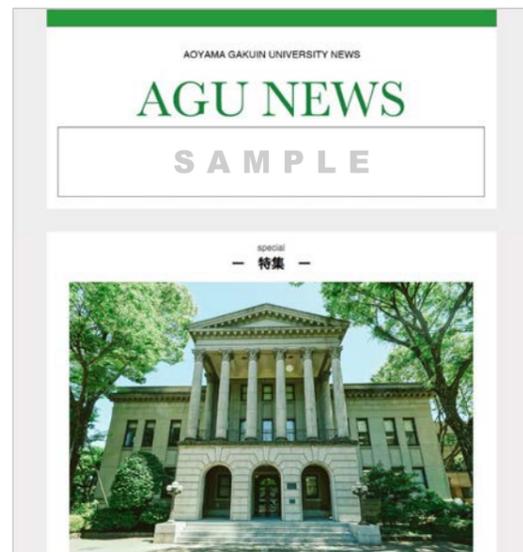
学生・保証人メールアドレス変更の問い合わせ先

：学生生活部 学生生活課 TEL: 03-3409-7835

新しい「AGU NEWS」がスタート!

次号からメール配信により、動画コンテンツをはじめ、より多くのニュースやトピックスをタイムリーにお届けします。

AGU NEWS [掲載イメージ]



本学公式ウェブコンテンツのご紹介

「AGU LIFE」「AGU RESEARCH」をはじめ、これまで以上にタイムリーなニュースやトピックスをお届けします。

AGU LIFE



本学で活躍している「人」、本学での学びを生かして活躍されている「人」に焦点をあて、記事を掲載しています。

また、ゼミナール、研究室での演習や授業等も、ご紹介しています。



AGU RESEARCH



本学の教員に焦点をあて、これまでの多岐にわたる経験や研究、現在の活躍など、さまざまな角度からお伝えしています。



連携協定を締結

新潟県妙高市

2020年11月27日(金)、本学は妙高市と連携協力に関する協定を締結。妙高市の自然・伝統・文化といった観光資源を有効に活用し、相互の交流・発展を図ることで、地域社会への貢献とスポーツ活動の活性化や人材育成に寄与することを目的としています。

「学生3大駅伝を制覇したチームを有する青山学院大学」と「日本一の合宿誘致を目指す妙高市」の両者が連携することで、相互のさらなる発展につながる事業を推進します。



入村明 妙高市長 阪本浩 学長

日本航空株式会社 (以下「JAL」)

2020年12月8日(火)にはJALと連携協定を締結しました。本学とJALは、2019年度よりJAL社員による「ホスピタリティ・マネジメント講座」を開講し、ホスピタリティの理解を通して学生のキャリア支援につなげる実践的な取り組みを行ってきました。今回の協定を機に更なる教育・研究交流を活発に行うことで、より一層社会の進歩・発展に貢献する教養豊かな国際的人材の育成と輩出を目指します。



JAL代表取締役副社長 清水新一郎氏 (右)、阪本浩 学長 (左)

青山学院校友会からのお知らせ

青山学院校友会ウェブサイト <http://www.alumni-aogaku.jp/>

青山学院には、卒業生同士の親睦を深め、母校との絆をつなぐ「青山学院校友会」が組織され、すべての卒業生が正会員として迎えられます。各学部・学科同窓会の他、国内55カ所・海外21カ所の地域支部、職種別団体や部活動、OB・OG団体等が参加するアイビーグループによって構成されており、多彩な活動を行っています。卒業後はぜひ積極的に校友会活動にご参加ください。校友の活躍やニュース等は、年に3回発行する『あなたと青山学院』で紹介しております。校友会ウェブサイトでも電子版を公開していますので、ぜひご覧ください。



「あなたと青山学院」No.33



〈卒業生の皆さまへ〉

校友会の事務局は「青山学院校友会センター」です。校友会センターは卒業生の住所などの基本情報を管理し、卒業生と母校青山学院とを結ぶ窓口となっています。住所、氏名等に変更が生じた場合は、必ず校友会センターへお知らせください。校友会センターに寄せられた個人情報(「学校法人青山学院個人情報保護基本方針」に従い厳重に管理し、青山学院および校友会活動に関わることに活用されます。

青山学院の広報誌

卒業後、大学広報誌「AGU NEWS」の発送は終了しますが、下記の広報誌を通して卒業生の皆さまに「青山学院の今」をお伝えしていきます。

『あなたと青山学院』

住所の判明している校友全員に定期的に無料でお送りしています。

〔住所変更・発送に関する問い合わせ先〕

青山学院校友会センター TEL: 03-3409-6645 E-mail: agkoyu@aoyamagakuin.jp

『青山学報』

1916年創刊の青山学院公式機関誌。法人および幼稚園から大学・大学院までの青山学院の情報をお伝えしています。年4回の発行で、年間定期購読料は2,000円(送料含む)です。〔定期購読に関する問い合わせ先〕 青山学院購買会 TEL: 03-3409-4401

CLUB & CIRCLE 49 青山祭実行委員会

多くの観客から笑顔が生まれる 青山祭をつくりあげる

委員長: 法学部 法学科3年 飯塚 亮斗 記



実行委員会のメンバー



オンライン開催でも青学生の魅力を発信

毎年秋に青山キャンパスで開催する青山祭の企画・運営を行う団体です。年ごとにメンバーを募るのではなく、1年次から所属して、青山祭をつくっています。1都3県の大学学園祭のナンバーワンを決める「学園祭グランプリ」で、2018年度は総合2位を、2019年度は広報PR賞を受賞しています。

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大により、初のオンラインによる青山祭を開催しました。特設サイトには3日間で延べ約18,000人、ライブ配信には最高約1,500人の同時アクセスを記録しました。今後も企画のクオリティを上げ、さまざまなアイデアを練って、皆さんの満足度をより高められるような魅力ある青山祭をつくっていきます。



林拓也教授インタビュー

「旅行ガイドブックをもとにしたバンコクの空間分析及び観光学全般」

林 拓也

地球社会共生学部 地球社会共生学科 教授
地球社会共生学部では、グローバルな「共生」をキーワードに、ビジネスやメディアなど幅広い専門領域から学びます。本ゼミナール（ゼミ）は空間情報学の空間分析の手法を取り入れ、観光学をテーマに研究しています。



Q. 地球社会共生学部をどのように捉えていますか？

青山学院のスクール・モットーである「地の塩、世の光」を体現し、地球規模で世界の人々と共に発展を目指すという使命感の高い学部だと思っています。私自身が本学の卒業生で、卒業してからそうした本学の教育理念や温かさを実感するようになりました。地球社会共生学部開設の2015年度に、本学部の教員となり母校へ戻れたことは嬉しかったです。まだ新しい学部ですが、学部の使命感を理解し、自ら行動できる個性的な学生たちが学んでいると感じます。

Q. ゼミでの指導内容について教えてください。

空間分析の手法を取り入れながら、観光学をテーマにした研究指導をしています。具体的には、20年分のガイドブックを用いて、同じ空間の経年変化を調査していくものです。対象フィールドは、タイのバンコクです。ガイドブックで紹介されているレストランやホテルといった施設の場所や特徴の変化を、「ArcGIS」という空間分析ソフトを使って“見える化”しています。

例えば高架鉄道が開通した1999年度前後のレストランを調べると、開通後には掲載されるレストランの範囲が鉄道に沿って外側に広がっていることが分かりました。これは、観光客の行動範囲が広がったことを示していま

す。また、女性が好みそうなカフェや、サーブスアパートメントのようなホテル以外の宿泊施設が掲載されるようになるなど、さまざまな変化が分かってきました。

もともと私の専門は戦後経済史および経営史ですが、本学部のカリキュラムの柱である半期の留学に目を向けてみると、留学先で勉強だけでなく観光も楽しんでいる学生が多いわけです。そこで学生の関心が高い観光をテーマに、学際的に研究していくこともできると思いました。私にとっても新しい挑戦ですが、学生たちと共に研究成果を形にしていきます。

Q. 指導する際に、心がけていることは何ですか？

文系のゼミでイメージされる「輪読の授業」ではなく、学生と共に発見していく「研究」をします。ただ今年度はコロナ禍で、対面で細やかに双方向で進める研究作業はほぼできませんでした。そこでオンラインで専門書の輪読や新書をもとに議論を行いました。対面の時よりも意見を言いやすいのか、より活発な議論ができた印象があります。オンラインの方が有利なこともあると実感しました。

とはいえ、20年分のガイドブックの分析には時間がかかるので、早く研究を再開させたいです。いずれゼミの学生全員の研究を論文にまとめることを目指しています。



ゼミ生の声

佐久山 琳さん

地球社会共生学部 地球社会共生学科4年
東京・私立跡見学園高等学校出身
(2020年度ゼミ代表)

私は本学部の「世界規模のさまざまな課題に向き合う」という理念に惹かれて入学しました。高校の政治経済の授業をきっかけに「世界中の人々が平等に幸せに暮らせる世界をつくりたい」と考えるようになったからです。入学後は複合的な領域から学び、タイへの留学も経験する中で、観光に興味を持つようになりました。そこで、学生主体で観光のプロジェクトを企画する林ゼミを選びました。ゼミでは、自分とは違う視点からものごとを見る仲間たちの意見を聞くことができ、刺激的です。おかげで、視野を広く持つことができました。

林先生は学生の主体性を重んじてくださいます。例えば、相模原キャンパスの留学生向けのガイドブックを学生中心で制作したり、学生の要望でOB・OGとのオンライン懇親会をコロナ禍でも実現していただきました。縦横のつながりの強いゼミで、先生のご指導のもと成長できたと思います。

Lecture Items

古いものを集めるのに苦労した、20年分の「るるぶ」タイ版。掲載されている施設の緯度・経度を空間分析ソフト「ArcGIS」に打ち込み、経年変化を調査。いずれ他のガイドブックも研究で取り上げていくつもりです。



AGU NEWSについて

- 青山学院大学では、大学広報誌「AGU NEWS」を発行し、在学生の保証人の方々へ送付していますが、次号からは大学に登録の「保証人メールアドレス」に配信します。なお、保証人メールアドレスの確認・変更は、学生ポータルで学生ご本人が手続きできます。詳細はP.10をご確認ください。
- 最新号からバックナンバーまで、本学公式ウェブサイトでご覧いただけます。